

大原れいこメモリアル 特別ギャラリーコンサート ジュピター・カルテット・ジャパン & 今井信子

Jupiter Quartet Japan & Nobuko Imai

©平館平



植村 太郎 (ヴァイオリン)

©Bertrand Pichene



佐橋 マドカ (ヴァイオリン)

©Fabian Karner



原 麻理子 (ヴィオラ)

©日本コロムビア



宮田 大 (チェロ)

大原れいこが手掛けたドキュメンタリー番組の最後を飾る
再会コンサートが15年ぶりに実現！

—— プログラム ——

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 作品127

* * *

ブラームス:弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品111

©Marco Borggreve



共演:今井 信子 (ヴィオラ)

2026年 **4月19日** (日) 18:30開演 (18:00開場)

会 場 : 大原美術館 本館2階ギャラリー

全席自由 : 5,000円 (定員 : 180名) ※ 未就学児入場不可

チケット発売 : 2026年2月4日 (水) 10時

お申込み方法 : Googleフォーム または 株式会社三楽 窓口

※ お求めはお一人様 2枚まで

※ 電話での申込受付はしていませんのでご了承ください



詳細・web 申込み

主催 : 大原れいこメモリアル特別ギャラリーコンサート実行委員会 (株式会社三楽 内)
倉敷市阿知2丁目25-33 TEL : 086-422-2299

協力 : 公益財団法人大原芸術財団 / BS朝日 / テレビマンユニオン

『カルテットという名の青春が過ぎても』

2011 年秋に BS 朝日で放送されたテレビマンユニオン制作『カルテットという名の青春』を覚えていらっしゃるでしょうか。日本の若手最高の弦楽四重奏団と呼ばれたジュピター・カルテット・ジャパンの 4 人（植村太郎・佐橋マドカ・原麻理子・宮田大）が過ごした青春の日々を 3 年半にわたる長期取材で描いたドキュメンタリーとして当時大きな反響を呼び、ギャラクシー賞を受賞しました。大原美術館でのギャラリーコンサート出演などを最後にカルテットの活動を休止させ、「自分の音」を探す旅に出た 4 人。それから 15 年以上の時間が過ぎ、いま 4 人は違う環境でそれぞれ第一線の音楽家として活躍しています。

実はこの番組を手掛けたのは、テレビマンユニオンのディレクター & プロデューサーであり、くらしきコンサート代表の大原れいこでした。大原はその後の彼らも追いつけ、継続番組を企画していました。しかし 2020 年、道半ばに亡くなり、このプロジェクトは後進に引き継がれることとなりました。

そして 2026 年 4 月、活動休止以降一度も集うことのなかった 4 人が再会し、思い出の地・倉敷で演奏会を開きます。再会コンサートで 4 人はどのような「自分たちの音」を奏でるのか。

大原美術館ギャラリーコンサート最多出演で、彼らの師でもある今井信子さんが参加されての特別コンサート。円熟した名手たちの熱演にご期待ください。



大原れいこ くらしきコンサート代表

大原総一郎の長女として倉敷市に生まれる。TBS を経て、1971 年テレビ番組制作会社テレビマンユニオンに参加。プロデューサー、ディレクターとして、指揮者の小澤征爾やヴァイオリニストの五嶋龍など数々のドキュメンタリー番組や、「オーケストラがやって来た」など音楽番組を制作した。2020 年(令和 2 年)4 月 27 日死去

ジュピター・カルット・ジャパン Jupiter Quartet Japan

2004 年、桐朋学園の若き学生たちによって生まれたジュピター・カルテット・ジャパン。2005 年には桐朋学園室内楽講習会 in 富山にて東京クワルテットの薫陶を受け、JT「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」や調布音楽祭、プロジェクト Q・第 3 章など、数々の舞台で研鑽を重ねる。2007 年、東京クワルテットの招きによりエール大学主催のノーフォーク音楽祭に参加。その後、ジュネーヴ高等音楽院にてタカーチ弦楽四重奏団の創立者ガボール・タカーチ＝ナジに師事し、欧州での活動も広げた。これまでに原田幸一郎、原田禎夫、今井信子、そして東京、ゲヴァントハウス、ジュリアード、上海、ミケランジェロなど世界を代表するカルテットから薫陶を受ける。2010 年活動を休止、それぞれがソリストや室内楽、オーケストラ奏者として国内外で活動してきた。2026 年 4 月、満を持しての再会コンサートが実現する。

植村太郎(ヴァイオリン) Taro Uemura, violin

ローム ミュージック ファンデーション、岡田文化財団に助成を受け、ジュネーヴ高等音楽院(室内楽)、ハンス・アイスラー音楽大学大学院等にて研鑽を積む。日本音楽コンクール第 1 位など多数入賞。ブラハ交響楽団、モーツァルト管弦楽団、東京交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、他と協演。現在、国内外でソロ、コンサートマスター、室内楽奏者として活躍する。「太郎宿舎」を主宰するなど若手の育成にも力を注ぐ。また様々なアイデアを反映した演奏会を自ら企画し、好評を得ている。現在、東京藝術大学教授、藝大フィル・ソロ・コンサートマスター、東京藝大ジュニア・アカデミー講師、フコク生命パートナー・アーティスト、桐朋オーケストラアカデミー富山非常勤講師など活動は多岐にわたる。使用楽器はイエロー・エンジェルより T.パレストリエリ 1760 を貸与。

原 麻理子(ヴィオラ) Mariko Hara, viola

ウィーンを拠点に、ソリスト、室内楽奏者として活躍。桐朋学園大学在学中にヴィオラへ転向。2006 年より今井信子のもとジュネーヴ高等音楽院に留学。2009 年首席で卒業。2010 - 13 年ケルン音楽院にてアントワン・タメスティ、ステイヴン・イッサーリスに師事。2006 年ブラームス国際コンクール第 2 賞。ヴェルビエ、クフモ、ルツェルン等の国際音楽祭に招かれ、ウィグモアホール、ベートーヴェンハウス・ボン、コンツェルトハウス・ウィーン、東京オペラシティ B→C、トッパンホール等、内外の主要ホールで演奏。2014 年“Best of NRW”アーティストとしてドイツ 14 都市ツアーを行う。日フィル、ドゥイスブルク・フィル、チュニジア響等と協演。近年はチロル音楽祭やハウス・オブ・シュトラウスにてコンサートシリーズを展開し、音楽とアート、香りを結ぶ新しい表現にも挑戦。強さと柔らかさ、静けさと炎。そのすべてを内に抱きながら、彼女の音楽は生きることそのもののように、鮮やかに響きわたる。

今井信子(ヴィオラ) Nobuko Imai, viola

現代屈指のヴィオラ奏者として高い信頼と圧倒的な人気を誇る。ソリスト、室内楽奏者、教育者として国際的に活躍、ヴィオラ界をリードする存在としてヴィオラスペース、インターナショナル・ヒンデミット・ヴィオラ・フェスティバルの企画・演奏、東京国際ヴィオラコンクールの設立等に携わる。武満徹「ア・ストリング・アラウンド・オータム」等ヴィオラの為の作品の世界初演も多い。これまでにフィリップス、BIS 等から 40 を超える CD をリリース。著書に「憧れ ヴィオラとともに」(春秋社)がある。桐朋学園大学卒業、エール大学大学院、ジュリアード音楽院を経て、1967 年ミュンヘン、68 年ジュネーヴ両国際コンクール最高位入賞。ベルリン・フィル、ロンドン響、パリ管、シカゴ響等と共演、室内楽ではフェルメール、ミケランジェロ両弦楽四重奏団のメンバーをつとめたほか、バレンボイム、五嶋みどり、マイスキーらと共演している。教育活動にも熱心に取り組み、ソフィア王妃高等音楽院、クロンベルク・アカデミー、アムステルダム音楽院等の教授を歴任、今井の薫陶を受けたヴィオリスト達が現在世界各地で活躍している。日本芸術院会員。

佐橋マドカ(ヴァイオリン) Madoka Sakitsu, violin

ジュリアード音楽院ブレ・カレッジ、桐朋学園大学を経てジュネーヴ高等音楽院に学ぶ。ローム ミュージック ファンデーション奨学生。国内外の主要音楽祭や、小澤征爾音楽塾、サイトウ・キネン・オーケストラ等に参加。現在、ヨーロッパを拠点に活動。仏アヌマス音楽院教授として後進の指導にもあたる。フランス国立サヴォワ管弦楽団首席奏者、レマニク・モダン・アンサンブルのメンバー。客演首席奏者として欧州のオーケストラに招かれ、現代音楽アンサンブルとのコラボレーション、タンゴ、バロック等幅広い分野で活躍している。ソリストとして名フィル、サヴォア管、ランシー管、オーケストラ・コンセルテュス等と協演。ジュネーヴ大歌劇場にてフィリップ・グラス作曲オペラ「浜辺のアインシュタイン」のソリストに抜擢され好評を博す。

宮田 大(チェロ) Dai Miyata, cello

2009 年ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。トーマス・ダウスゴー指揮、BBC スコティッシュ交響楽団との共演による「エルガー：チェロ協奏曲」の欧米盤が、欧州のクラシック界における権威のある賞の一つオーバス・クラシック賞 2021 を受賞するなど、海外からの評価も高い。ジュネーヴ高等音楽院卒業、クロンベルク・アカデミー修了。桐朋学園大学特任教授、桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)非常勤講師、水戸室内楽管弦楽団団員、サイトウ・キネン・オーケストラではアドバイザリー委員を務める。使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された 1698 年製 A. ストラディヴァリウス“Cholmondeley”。